



Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス 本のある人生

2024年10月 vol.27

やっと暑い夏が過ぎて行きました。

今年の夏は2番目の孫と私の姉が夏休みの宿題で「ぶたうさぎ」というキャラクター?をペットボトルで作り、ペイントもしていました。昔は読書感想文もあったと思うのですが・・・

今度、「6年生・4年生・4歳・2歳ふたり」の5人の孫にお気に入りの本を見つけに、一緒に本屋さんへ出かけようと思います。皆さんはどのようなお気に入りの本をお持ちでしょうか? (教育委員会: 勝本 康江)

書店員は見た! 本屋さんで起こる小さなドラマ / 森田 めぐみ

デイサービス オアシスきざり / 看護師 柴原 智恵子

タイトルの「書店員は見た!」、そしてサブタイトルの「本屋さんで、よろず人生相談承ります!」に惹かれ、気が付いたら一気に読み終わっていました。ストーリーは書店員と、本屋さんに来られたお客さんとのエピソードです。



作者は書店員になって初めてお客さんと関わった際の出来事がとても印象的だったようです。70代くらいの男性から「名を名乗れ」という本を探していると言われ、検索するが見つからず困っていましたが、「映画にもなった本だぞ。本当にないのか?孫に頼まれたのに!」との言葉から、その瞬間に頭の中でメロディーが流れ、ある作品が浮かびました。「『君の名は』ですね!」「そう、それや」とお客さんは喜ばれていました。

私は今まで書店員さんに話かけられたことがなく、本屋さんでこんな面白いことが起こっていることにびっくりしました。色々な楽しいエピソードが書かれており、その時の情景が浮かび、引き込まれました。そのエピソードごとに悩みを解決する本も紹介されており、楽しく読む事ができます。今はネットで簡単に本が買える時代ですが、ぜひ本屋さんへ足を運び、書店員さんに話しかけてみてください。



・次回⇒ デイサービス オアシス長瀬 / 介護士 杉本 健二

紫式部は今日も憂鬱 / 堀越英美、紫式部

老健 オアシス 衛生 / 吉村 智子

今年の某大河ドラマの主人公:紫式部が実際に書いたと言われる「紫式部日記」。学生時代に一度読んだことがあるものの、「どんな内容だったかな」と思っていた時に見つけたのが「紫式部日記を令和言葉で30代OL風に超訳した」という本書「紫式部は今日も憂鬱」でした。



物語作家として有名だった紫式部は、時の権力者である藤原道長の要請で、道長の娘であり天皇の後でもある彰子に仕えることになります。しかし、引きこもりな性格のうえ、周りからは「インテリぶった嫌味な女性」と思われていたため、わざとおバカなふりをしたりと人間関係にはかなり苦労したようです。

日記には敬愛する主人である彰子の皇子出産に際しドタバタする藤原家、盛大で優雅なお祝いパーティの様子を中心に、道長の家庭的な一面が書かれていたり、同僚に対する批評や愚痴、平安ファッションについてのあれこれ、職場の問題点への指摘などが書かれています。

現代人にも同じような悩みがあるはず。優雅に見えるけど、意外にシビアで必死な平安世界を覗いてみてください。



・次回⇒ 老健 オアシス 衛生 / 小郷 仁美

くまのこうちようせんせい / 作:こんのひとみ 絵:いもとようこ

デイケア オアシス寿安 / 生活相談員 刈谷 百合恵

私がご紹介したい本は、子どもが選んで購入した絵本です。この絵本は本当にあったことを元に、「大きな声が怖いひつじくんと」「身体も声も大きいクマの校長先生」に置き換えて書かれています。



ひつじくんは大きな声を聞くと、お母さんから怒られている時や、お父さんとお母さんが喧嘩している時を思い出してしまいます。

校長先生は「大きな声で挨拶するように」とひつじくんに声をかけていましたが、なかなか大きな声を出せないひつじくんでした。

ある日、校長先生は病気を患い大きな声が出なくなりました。「大きな声を出そうと思って出せないときがある」ということを初めて知り、ひつじくんに無理を言ったことを謝りました。

子どもたちがこの絵本を好きなのでよく読み聞かせをしますが、自分には出来ても人には出来ないことがあるということ、そして、友達が難しいと思う事を無理強いしていないか、この絵本を読む度に母子で一緒に考えさせられています。



・次回⇒ デイケア オアシス寿安 / 介護士 渡邊 由紀恵

男は旗 / 稲見 一良

老健 オアシス 入所介護 / 介護士 足立 健一

この本との出会いは今から10年以上前になります。読みやすいページ数でもあり、多分この10年で一番読み返した本になります。



なぜこの本を選んだかと言うと、このオアシス・ミーツ・ブックスが出る頃には、私がオアシスに入職して10年が経つからです。思い返すと、入職当時は介護業界で勤務するのは初めてで不安の毎日でしたが、同僚や先輩、そして上司の方々から指導を受けながら今日に至りました。これも偏に周りの方々のフォローや自分自身(?)のがんばりのおかげだと思います(笑) これからも様々な事を吸収し、自分自身に、仕事に生かしていく所存です。

今回の企画は、私にとってもこの10年を振り返る良い機会でした。あまり本の感想にはなっていないかもしれませんが、内容は海洋冒険小説になります。世間からはみ出した人達と、今は使われていない船が出会い、外海へ出て財宝を見つけるという物語です。「海賊」や「黄金」などのワードに興味がありましたらご一読を。



・次回⇒ 健 オアシス 入所看護 / 介護士 (特定技能) レー・ティ・ホン・ガン

風が強く吹いている / 三浦しをん

介護支援センター オアシス 地下鉄平野駅前 / ケアマネジャー 新堂 仁子

この本はお正月が近づいてくると読みたくなる、毎年、新年1月2日・3日に行われる箱根駅伝出場にかけた学生たちの物語です。



箱根駅伝に出場できるのは関東大学20校。うち10校は前年のシード校。残りの10校を勝ち取るため、記録会に出場し、予選会で争います。それも出場するメンバー全員が既定のタイムを出さないといけません。

そうとは知らずに賭け付きの寮に住んでいた学生たち。その寮に住む四年生・灰二(ハイジ)にとって最後のチャンスの年、走(カケル)が入学してきたことから、物語が動き出します。今までマラソンをした事もない寮生が過酷な練習に挑み、そして勝ち取った出場権。

年に一度の晴れ舞台「箱根駅伝出場」に至るまでの地味で並大抵ではない努力、来年のお正月にはこの本を読んで、箱根駅伝を楽しんでいただきたいと思います。

・次回⇒ 介護支援センター オアシス / ケアマネジャー 長崎 清子

眼・術・戦 ヤット流ゲームメイクの極意 / 遠藤 保仁、西部 謙司

特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 西翔太

私がご紹介したい本は、元サッカー日本代表の遠藤保仁の本です。幼い頃からプロサッカーチームのガンバ大阪の試合をよく観に行っていました。



そこに所属していた遠藤保仁選手は私に沢山の影響を与えてくれた選手であり、普段は本をほとんど読まない私が、学生時代にこの本に出会い、サッカー以外のことも沢山学ぶことができました。

この本で特に印象に残っているのは、『プライドは成長の邪魔をする』という言葉です。プライドは、他者から受ける評価などのメンツ的なニュアンスを含むもので、誇りとは自分を大事にする気持ち。私はこの部分を読み、周囲と自分を比べるのではなく、目標を決め、コツコツと達成し、自身を手にして誇りを持つことが生きていく上でとても大切なことだと学びました。

・次回⇒ 特養 オアシス寿安 生活支援課 / 介護士 堀尾 淳



不安と折り合いをつけて うまいこと老いる生き方 / 奥田弘美、中村恒子

老健 オアシス リハビリ / 理学療法士 金井 一曉

今回、私が皆さんに是非ご紹介したい本は、90代の精神科医である中村恒子さんと50代の同じく精神科医である奥田弘美さんが、ご自身の経験や患者さんの治療経験などから、心安らかに老後を過ごす方法について書かれた『不安と折り合いをつけて うまいこと老いる生き方』という本です。



私がこの本を読んだ理由として、まず皆さんにお伝えしたいのは、この本はタイトルに「老い」とはあるものの、むしろ日々生きていく中で、「自分の人生はこのままで良いのか」「本当はこうあるべきなんじゃないか」など漠然とした不安を抱えている若い世代の方々にこそ、生きるヒントを与えてくれる本だということです。

SNSなどの普及により、希薄な人間関係で繋がる人の数だけが増え、気付かぬうちに膨大な情報に飲み込まれ、無意識のうちに他人と自分を比較して不安の霧の中に迷い込む。そういったことに対し、著者である精神科医のお二人が、とりとめもない会話をするように話が展開していきます。特に戦中戦後の怒涛の時代を生き抜いてこられた中村さんのお話には説得力とユーモアがあり、ずっと皆さんの心にやさしく響いてくるのではないかと思います。将来に不安を感じたり、過去に後悔の念を抱いたり、そんな時にこの本はあなたの心を軽くしてくれるのではないかと思います。

・次回⇒ 老健 オアシス リハビリ / 理学療法士 内堀 主税



オアシス文庫 recommend



大切なことに気づかせてくれる
33の物語と90の名言
西沢 泰生

この本には、有名・著名人から一般人まで、さまざまなエピソードが盛りだくさんで、どれもコンパクトで読みやすく、寝る前に1ページ読んだり、時間がある時にはサクサク読んだりできます。読んでいるうちに自然と心がほっこりしたり、涙がこぼれたり、筆者の心の温かさやユーモアが伝わってきて、ちょっと元気を出したい時にぴったりの本でした。基本的に大人向けではありますが、内容によっては中学生や小さい子たちにも読み聞かせをしたりして、素敵な大人に近づいてもらえたらなあ、と、そう思われる本でもありました。そして自分自身の考え方を教えてくれて、それによって悩みも解決してくれそうな、そんな物語がたくさんです。

さらっと読めてしまうので、ぜひ皆さんにも読んで欲しい本です。
(教育委員会：長 ゆかり)

老健・特養寿安・支援長瀬の
「オアシス文庫」から貸し出しできます▶



編集後記

今号も、どれも面白そうな本ばかり!! 本当にありがとうございます。もうすぐ読書によい季節がやってきますが、皆様は、今、読みたい本はありますか? 私は、配食ドライバーの永井さんからお借りして長らくになる「ソフィの世界」(時間が足らなかなかなか読めないのですがとても面白いです!)を読み切ることに、只今、リチャード三世がちょっとしたマイブームなので、それに関連する書籍を1冊でいいので読みたいと思います。

疑う余地もない「真実」とされていたことも、様々な研究や新たに見つかった文献などから後年、それらが変わっていくことがあります。まさに、現在、その渦中にある歴史上の人物のひとりかも、とワクワクしています。誰もが、なかなか読書の時間を作るのは困難なことだと思います。今は難しくても、OmBやオアシス文庫を通じて「これ、いつか読んでみたいな」と思っていただければ、私たちにとってこんな嬉しいことはありません(^^)



教育委員会
(教育委員会：中島美和子)